



名前	榎本 修 (Enomoto Osamu)
課程	博士課程
研究分野	民事訴訟法 (民事訴訟の期日間隔について)

主な経歴・学位等

1991年 司法試験合格
1992年 京都大学法学部 卒業 (学士 (法学))
1992年 最高裁判所 司法研修所司法修習生 (第46期/～1994年)
1994年 弁護士登録 (～現在)
2004年 愛知大学法科大学院 教授 (～2009年)
2014年 愛知県弁護士会 副会長 (～2015年)
2016年 中部弁護士会連合会 事務局長 (～2017年)
2017年 名古屋大学法科大学院 教授 (～2020年)

最近の主要業績

- 判評**
- 2023年12月11日 東京大学商法研究会
取締役責任調査委員会委員弁護士の代理人としての訴訟行為
最高裁令和4年6月27日第一小法廷決定 集民268号323頁、判タ1503号17頁
 - 2024年1月5日 東京大学民事判例研究会
破産管財人の債務承認による時効中断
最高裁令和5年2月1日第三小法廷決定 民集77巻2号183頁
- 論文**
- 「ローヤリング基礎論覚書(1)～(8)」
(名古屋大学法政論集、282～286、288～290号、2019～2021年)
- 書籍**
- 『ローヤリングの考え方』 (名古屋大学出版会、2022年)
- 翻訳**
- David A. Binder, Paul B. Bergman, Paul R. Tremblay, Ian S. Weinstein (著)
菅原 郁夫 = 荒川 歩 (監修, 翻訳), 石崎千景, 榎本 修, 遠藤 凌河 (翻訳)
『カウンセラーとしての弁護士: 依頼者中心の面接技法』 (法律文化社、2023年)
[共訳 (11章・19章担当)]
- 報告等**
- 臨床現場から出発する法曹倫理のシラバス
臨床法学教育学会 2023年度第16回年次大会 (2023年6月17日)
 - 日本の弁護士実務から見た依頼者中心主義: 弁護士職務基本規程との関係を中心に
2023年度 日本法社会学会学術大会 (2023年5月13日)
 - ローヤリング (弁護士の基礎的技能) を学ぶ
大阪弁護士会 研修義務化対象講座
① 法律相談・面談/調査・証拠収集②事件受任/委任終了時の作業・報酬③交渉
 - 「ローヤリングの考え方」と法実務教育
— <3+2>時代の法実務教育教材の作成と活用
PSIMコンソーシアム 第40回法実務技能教育支援セミナー (2022年6月18日)
 - Book Reviewと対話—「ローヤリングの考え方」 Sidney Kanazawa, J.C.Lore
PSIMコンソーシアム 第39回 法実務技能教育支援セミナー (2022年3月12日)
 - 「法科大学院科目『ローヤリング (法律相談、交渉、ADR等の弁護士実務)』の考え方」
日本法社会学会関東研究支部 2021年度第4回定例研究会 (2021年11月27日)
 - 「ローヤリング等臨床系諸科目と法曹倫理との連携について」
臨床法学教育学会第14回年次大会 (2021年6月12日)
- 榎本 修「法科大学院科目『ローヤリング』の目指すものと『交渉』」
第33回日本交渉学会全国大会 2020年11月14日